

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191600081		
法人名	医療法人社団 栄寿会		
事業所名	グループホーム 栄寿荘		
所在地	佐賀県杵島郡江北町大字上小田280-1		
自己評価作成日	令和 5年 2月 20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年3月28日	外部評価確定日	令和5年5月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の方針として、開放的な施設であることを目指している。入所施設は、つい閉鎖的な環境になりがちなので常に開放的であることをあえて意識している。開放的であることは、利用者様を社会から隔離、遮断してしまうことを防ぐことが出来、また職員の意識や視野が狭くなってしまふことを防ぐこともできる。そのため、家族の面会をはじめ、ボランティアの受け入れ、利用者様の外出、地域行事への参加、そして職員教育では外部研修に参加するなど積極的に行うようにしている。外に目を向けていくことで様々な声を聞くことができ、自分たちのケアや業務を振り返る姿勢を持つことで、利用者様に、より良い生活環境や支援を提供していくことが出来ると考えている。また地域密着型施設として認知症の正しい理解の啓発に努めることも大切な役割の一つと考えている。現在、施設地域の夏祭り参加やボランティアの受け入れ、地域の方々との交流については、3年前からのコロナ禍の為、実施できていない。利用者様とご家族様の面会に関してもコロナ禍で思うように出来ないが、リモート面会や窓越しでの面会を行っています。会議等に関しましても電話やリモートを積極的に活用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

外観は中央に円形の屋根がある瀟洒なデザインで、左右対称になる建物内は廊下も広く、各居室にはトイレと洗面台、クローゼットが設えてある。両ユニットから居室を出ると真ん中のリビングで集える計らいである。椅子やソファがあちらこちらに置かれ、外の景色を眺めながら談笑する利用者もある。現在は家族との窓越し面会場所にもなっている。マスク着用緩和や5類移行となってもコロナ禍が終息した訳ではなく、高齢者が暮らす事業所として、またクラスターも経験しており模索は続いている。事業所の特徴は地域密着を謳い実行している事である。高齢化社会を迎え、専門知識を有する事業所として認知症カフェや啓発活動にも積極的に関わっている。地域の拠り所となっている病院が法人母体であることも心強く、自信を持って日々のケアに努めている事業所である。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB (Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の共有は出来ており地域密着型として地域の方々との交流を大切にしているが、去年よりコロナ禍の為、思うように実施出来ていない。	「私達は良き出会いに感謝し互いに尊敬しあい明るいホームを目指します」をモットーに人として理解し、思いを大切にすのケアの在り方を、全職員で理念を共有して個別支援に繋げている。	理念は各ユニットの目に付く場所に掲示され意識付けを図っている。法人全体で統一され、「尊敬」「思いやり」「居心地のいい場所」、また「良き出会い」「感謝」「明るいホーム」などがそれぞれに謳われ、言葉に違いはあるものの基本となる想いは同じであることが窺える。出会いに感謝すると共に、これからも安心して生活できる場所を提供していきたいとの想いを新たにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、交流に関してはなかなか思うように出来ていないがコロナ終息後からすぐに再開出来るよう連絡を取り合っている。	約1年にわたる、コロナ禍の状況で地域との交流は難しいが、毎週ボランティアで歌や踊りを披露して頂いている方々とは、コロナ終息後はすぐに開催して頂けるよう連絡を密に行っている。認知症カフェの開催も積極的に行えるよう努めている。	地域に開かれた施設を自認しており自治会にも加入している。通常であれば地域の行事に出掛け交流もあったが、現在は行事自体が中止されている。認知症に関して専門知識を有する事業所として、カフェの開催は地域への貢献でもあった。殆どが規制中となり、自粛を余儀なくされてはいるが、地域との繋がりや見守り等を頼める関係は維持できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	去年はコロナ禍の為開催出来ていないが毎年の認知症カフェ開催や、2か月に1回行っている運営推進会議を通して、認知症を可能なかぎり理解してもらえるような取り組みを行って理解を深めている。	認知症カフェ、運営推進会議、民生委員会での認知症サポーター研修、また老人会での認知症劇を通して、認知症を可能なかぎり理解してもらえるような取り組みを行って、日々努力し理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、区長、老人会長、知見者、包括委員へ月毎の入居者状況、行事報告を行いながら、施設内の情報交換を行っている。認知症の理解を深めてもらいサービスの向上に活かしている。	民生委員、区長、老人会長、知見者、包括委員へ月毎の入居者状況、行事報告を行いながら、施設内の情報交換を行っている。認知症の理解を深めてもらいサービスの向上に活かしている。	今年度の会議は集合することが叶わず、資料配布をもって開催としている。運営推進会議が、地域の理解と支援を得る機会になる事を理解しており、開催時には、メンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面もあった。各ユニットに防災無線が設置されたのは、この会議がきっかけである。外部の人の目が入る貴重な機会でもあるため、対面での開催に事業所も期待している。	構成メンバーに地域役職の方々が多いのは嬉しい点ではあるが、加えて家族の参加に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に役場包括職員も参加して頂き、施設運営上の問題点や疑問などを伝え、伺いながらサービス向上に努めている。	運営推進会議に役場包括職員も参加して頂き、施設運営上の問題点や疑問などを伝え、伺いながらサービス向上に努めている。定期的に自治体と協力して認知症カフェの開催を行うべく努力している。	運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から顔馴染みである。担当者が出席できない場合は代理を出されており、普段から協働関係の良さも窺える。問い合わせ等があればまず電話を掛け、内容によっては直接出向くこともある。実直に対応してもらえる関係を築いている。また通常であれば介護相談員の受け入れもあるところ、コロナ禍では中止している。玄関に介護相談員の啓発ポスターも掲示しており、今後の緩和状況によっては再開となる。事業所と利用者の橋渡し役として声を届けてくれる事に期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する考え方を全職員で協議して拘束予防に努めている。安全面でやむを得ない場合、ご家族様に説明を行い一時的な玄関施錠やセンサーマットの使用で理解を得られている。	身体拘束に関する考え方を全職員で協議して、安全面でやむを得ない場合以外の拘束予防に努めている。無断離設や転倒、転落等のリスクについては、ご家族様に説明を行い、一時的な施錠やセンサーマットの使用で理解を得られている。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容やその弊害まで理解しており、現在その実施例はない。止む無く実施する場合も、危険防止や家族の承諾を理由に正当化することはない。止めるための工夫や方法を頻りに話し合う事としている。勉強会等も臨機応変に組み込まれている。玄関に施錠はなく、チャイムやセンサーはあるものの、職員には所在確認の習慣もあり、安全で自由な暮らしが支援されている。外へ向かう方がいても無理に引き返すことはない。行動は抑えないのが基本である。仮に不適切なケアが見られた場合は、本人に理由を尋ね、考えさせ、ケースによっては全体の事として提起するとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の勉強会や研修に参加し知識を深めた上で業務に取り組み、虐待に繋がりそうなケアを発見したら職員全員で話し合う機会を設けている。	ミーティングや勉強会、研修等で常に「人権意識」を念頭に置き「認知症高齢者の虐待防止」について話し合う機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体として「権利擁護」について研修会等に参加し、全職員が関心を持ち、利用者様、ご家族様、地域の方の助言を頂き、必要であれば関係機関へ迅速な対応ができるよう支援を行っている。	施設全体として「権利擁護」について研修会等に参加し、全職員が関心を持ち、利用者様、ご家族様、地域の方の助言を頂き、必要であれば関係機関へ迅速な対応ができるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には可能な限りご本人様、ご家族様で施設見学をして頂き、グループホームの雰囲気、特徴等をお伝えし納得の上で契約させて頂いている。不安、要望等もお尋ねしてサービス内容を十分に説明し理解して頂き、できる範囲で要望に応えるよう努力している。	契約前には可能な限り、ご本人様、ご家族様で施設見学をして頂き、グループホームの雰囲気、特徴等をお伝えしている。納得の上で契約させて頂いている。不安、要望等もお尋ねしてサービス内容を十分に説明し、できる範囲で要望に応えるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様がいつでも意見や要望を伝えられるよう玄関に意見箱を設置し、職員はその内容を理解した上でケアに活かすように努めている。	利用者様、ご家族様より遠慮なく意見や要望を出して頂きやすい施設の雰囲気作りや、職員との関係作りに努めている。家族様の面会も積極的にして頂いており、家族様を通じてご本人様の要望など聞き取り、ケアに活かすように努めている。ポスターを掲示する事で家族様に意識して頂いている。	毎月発行のホーム便りには担当職員や本人が近況を記すコーナーがあり、写真も掲載され家族には好評である。更に通信アプリのラインを活用することで家族との意思疎通(想いや意見の聞き取り)や事業所からの情報発信も格段に進化している。クラスターを経験したことから、まだまだ敏感にならざるを得ず、面会は窓越しで対応しているが、家族とは直接会話が出来る機会であり大切にしている。意見が出されると、出来る事と出来ない事をきちんと説明しながら、前向きに活かそうとする姿勢も窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングでは管理者から幹部会議の報告を行うことで情報共有を行っている。職員が自由に意見を出せるように雰囲気作りを行っている。また、週1回部門長会議が開催されており、各事業所間での情報共有とともに意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月初めにスタッフミーティングを行い、幹部会議での情報を管理者から報告する事で情報の共有を行っている。職員も自由に提案し意見を出せるような機会を設け、反映出来ている。	現在のミーティングは毎月ではなく、必要がある時や職員から開催の求めがあった時に開いている。ユニット毎に行うか、合同になるか、休みの職員の出欠等々、リモートも含めて効率よく、また時には時間も掛けながら実施している。各々の経験を持ち寄りケアに活かした例もある。管理者としては働きやすい職場となるよう配慮も必要で、日頃からコミュニケーションを図り、定時での帰宅を促し、休暇希望にも出来るだけ応えている。現場の声に耳を傾け、その声は法人の上席にも届けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き働きやすい環境を整えている。資格取得のサポート等をする事で向上心を持って働けるよう努めている。	職員個々の勤務状況や実績を把握し、資格取得や研修会への参加を奨励し、職場環境の向上やサポートを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護指導者を配置している。職員が毎月の勉強会や法人外の研修に参加することで資質の向上を目指している。	認知症介護指導者を配置している。事例検討会を開催しており、ケアプランの作成にも繋げている。スタッフが外部の研修に参加しており、内部に持ち込み他のスタッフに勉強会で報告し、育成に繋がり、資質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での勉強会や交流の機会を作り同業者と連携やサービスの質の向上に努めている。	職員が研修会などに参加する事で他施設との交流を図る機会を作り、同業者との情報交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様とともに施設内を見学して頂きサービスの利用を開始する段階で不安なことや要望に耳を傾け本人様が安心して生活を送れるよう努めている。	ご家族様と共に施設内を見学して頂き、直接施設の印象や要望、困りごとなどをお聞きする機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様とともに施設内を見学して頂きサービスの利用を開始する段階で不安なことや要望に耳を傾け家族様との信頼関係も築くよう努めている。	ご本人様と施設内を見学して頂き、不安な事や困りごとなどお聞きする機会を設け信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談の段階からグループホーム内ケアマネージャーも同席し、本人様や家族様の抱えられている問題について十分な聞き取りを行いケアに努めている。	初期相談の段階からグループホーム内のケアマネージャーも同席し、ご本人様やご家族様の抱えられている問題について、十分な聞き取りを行っている。他のサービス利用も含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナ禍において利用者様は家族様や馴染みの方との交流を十分に図れない中多くの不安等を抱えていらっしゃる。少しでも不安を軽減できるよう日々のコミュニケーションを大切にしている。	グループホーム内で利用者様と共に生活を営む中でたくさんの気づきや学びを得る機会が多いと感じている。利用者様の残存能力を十分に発揮して頂けるように努め、信頼関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とのコミュニケーションも大切にしており率直な意見を頂けるような環境作りに努めている。	ご家族様とのコミュニケーションも大切にしており、スタッフとの遠慮のない気軽な関係を目指している。素直なご意見を頂けるような環境作りに努めている。カンファレンスにはご家族様も参加して頂き、ケアの方針を一緒に考えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事の参加や慰問、面会等あり近隣の方々との交流もあるが現在コロナ禍の為、交流が難しい状態である。 再開できる環境が整えばまた、交流や社会との関係を大切にしたいと努めている。	地域の行事へ参加など近隣の方々との交流もあり、利用者様によることで頂いている。ご家族様や近隣の馴染みの方々なども気軽に着て頂けるよう声掛けし関係継続に努めている。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、また担当のケアマネや病院のソーシャルワーカーからも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援が生まれ、盆正月の帰宅や馴染みの美容院へ通う方もあった。しかしコロナ禍では殆どが自粛となり、直に触れ合うことや以前のような外出は難しいのが現状である。そのような中でも電話で話してもらったり、毎月のホーム便りに自筆で手紙を書いてもらいながら、これまでの関係が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格を把握し、共同作業や細かい作業が好きな方、その方に合った作業を提供出来るように工夫している。また、性格やペースも考慮し食席や座る位置の配置関係に努めている。	食席の配置なども利用者同士の関係を考慮し、孤立される方がないように工夫している。レクリエーション活動の際も一人一人に声掛けしながら行ったり、言い争い等のトラブル時はスタッフが介入し個別に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はコロナ禍において、面会制限もあり病院等への面会は控えているが、通常は退居後も様子伺いをさせて頂くなど関係性の継続に努めている。	入院や施設などに退荘された利用者も、面会や様子伺い等にて本人様やご家族様の経過を把握し、少しでもサポートできることがあるなら支援していけるように努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各担当で随時意向を伺い、実現出来るように努めている。また、ご家族様とも情報共有を行い、これまでの生活歴や趣味嗜好等を活かせる様に努めている。	日常の会話や訴えから本人様の思いを汲み取り、また会話ができない利用者様にはその人本位で考えニーズを設定している。ケアプラン更新時には本人様と家族様にご意向の確認をしている。	職員は、利用者の生活歴などを踏まえて会話に活かしている。懐かしい名前や場所がきっかけとなり想いの把握に繋がることもある。居室を訪ねて、また一對一の時などは話が聞けることも多い。お気に入りの職員を待つ方もある。発語の少ない利用者とはジェスチャーを交えながら表情からも汲み取れるよう努めている。聞き取った事は口頭やパソコン上での記録、また職員日誌などを介し共有を図り、そこからケアプランに反映させた例もある。	
----	-----	---	--	--	--	--

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様より聞き取りを行っている。本人様が使った家具や道具等、馴染みのあるものを居室へ置き落着いて過ごして頂ける空間の提供に努めている。また、スタッフ間でも話し合いを行い、これまでの荘での生活歴の把握や引継ぎを行っている。	本人様や家族に聞き取りをしている。何気ない日常会話中でも過去の生活や家族のこと、地域のことなどお話しして頂いた事を支援に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサインや表情、行動等から不調の早期発見が出来るように日々の観察、ケアに努めている。また、スタッフ間でも話し合いを行い多方面からの目線での考え方を収集している。	毎日バイタルサインや顔色を確認し体調変化、ADLの状態を確認している。利用者様は一人一人思い思いの生活をされているが、居室で過ごされている利用者様には定期的に訪室し、お声掛けをして様子の確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケア会議を開催し現状の課題について話し合いを行っている。また、それらの事から今後課題となる事を見つけ出し、プランの作成を行っている。事故ヒヤリハットの分析を行い、スタッフ間で話し合いプランの見直しに活かしている。	最低でも6ヶ月に1回以上ケア会議を開催し介護計画を見直している。ケア会議では原則家族には出席して頂いている。出席できない家族や介護スタッフの意向、意見も事前に評価表に記入し、介護計画に反映させている。	ケアプランの見直し期間は概ね6か月毎としているが、利用者の状況に合わせて柔軟な対応である。入居して間もない時期も様子をみながら判断している。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は面会時やサービス担当者会議(コロナ禍ではスピーカーホンの音声で参加)の意見から汲み取っている。現状維持を願う家族は多い。歳を重ねる毎に身体機能の低下は否めないが、何にでも手を貸すのではなく、見守りの中で出来る事はやってもらふ姿勢が緩やかな経過を辿っている。毎日の積み重ねが功を奏している例でもある。また日々のケアプラン実施状況はパソコン上で管理され効率化を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録にて、現状の把握を行っている。また、変化等ある際は詳細に伝えることに努めている。毎月実施評価を行い、気づきからプランの変更に役立っている。	個別の介護計画を把握し、担当スタッフが月末に実施評価を行っている。ケア記録はタブレットに入力しパソコンを使って時系列でみたり、特定の事を抽出するなどして情報の共有をしている。月初めのミーティングでは特に気になることを出し合い、スタッフ間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、ご家族様のニーズに十二分に対応したいと願い、実現できるように努めている。コロナ禍で外出自粛を強いている中で、食べたいもののリクエストや、買い物代行を行う等の対応をしている。	本人のニーズを第一として柔軟に対応している。ニーズに大きな変化がある場合はケア会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は、地域の方たちによる週1回のレクリエーション活動や夏祭りへの参加、施設でのオレンジカフェ開催等行い、施設運営のサポートや利用者様との交流を図って頂いている。	地元の方のボランティアによる歌やハーモニカ演奏、地域の幼稚園からはお遊戯会に来て頂いている。地域行事では夏祭りに参加し地域交流の一資源(交流の場)として活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は1週間分のバイタルを表として主治医へ提出している。特記事項がある際は別途記入し報告している。特変時の臨時受診や、往診依頼時は詳細に伝え指示や処置を仰いでいる。	本人様の状態を、主治医に把握してもらうように併設の病院とも連携を取り、情報提供を行っている。(病院受診される直前1週間分のバイタル、食事摂取量、排便状況、変化等)	元々、協力医(法人母体)の患者だった方は病歴等を把握されている安心感がある。また入居後に説明を受け納得して協力医へ変更した方もある。昔からの馴染みの医師の元へ通う方もあり、それぞれが希望するかかりつけ医である。法人母体の医院は隣接する場所にあり、高齢者が暮らす事業所としては心強い。更に常勤の看護師がいることで日頃から状態観察も出来ており、職員にとっても安心感がある。他科受診の際には入居時に聞き取った希望先や、状況に応じて家族等にも尋ね対応している。受診に家族が付き添う場合はバイタル等を携行してもらいスムーズな診療に繋いでいる。現在コロナ禍で職員同行となっているが、結果はラインで報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様のバイタル面や体調面を情報共有しケアを行っている。併設の病院とも連携し看護師が週1回医療連携による健康観察に来ており、日頃の様子や状態の変化を報告し助言を頂いている。特に気になる方については看護師から主治医へ報告して頂き、適切な受診や看護が受けられる様に支援している。	併設の病院との医療連携にて、週1回看護師による訪問があり、利用者様の状態をみてもらっている。介護士は利用者様の状態の変化等、気になることがあれば報告し、情報共有を行い助言を頂いている。特に気になる利用者については看護師から主治医へ報告を行い、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時は、病状や状態の把握が出来るように訪問を行ったり、ご家族様との連絡を取り情報収集している。早期退院に向けて病院関係者との情報交換に努め、本人様やご家族様が安心して治療が出来るように努めている。	利用者様の入院時は、状態や病状の把握ができるように、入院先の病院へ定期的に連絡行い、ご家族様とも連絡取りながら早期退院に向けて情報交換に努めている。入院先の病院のカンファレンスにも参加し、利用者様、ご家族様が安心して治療が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する説明や特変時の対応等の話をしている。又、状態の変化に応じてその都度ご家族様と相談を行い、本人様とご家族様の意思を尊重し、ホームで出来る事を説明しながら、方針を共有出来るようにと取り組んでいる。	契約時に看取りについて説明し、特変時の対応等説明する。入居後、状態の変化に伴いご家族様と看護師も交え相談している。利用者様、ご家族様の意思を尊重し、施設で出来ることを説明しながら、方針を共有出来るように取り組んでいる。	入居契約時に指針の説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があれば応える用意もある。一旦は決めていても揺れ動く家族の気持ちを踏まえ、話し合いは何度でも重ねる事とし、かかりつけ医からの説明も受けられる。殆どの職員にその経験があり、勉強会はターミナルケア開始後だけではなく、日頃から計画に入っている。家族向けに心構えを促す冊子もあるが、幾度かの話し合いの中でバイタルサインの推移や身体の変化等を直に説明している。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていない。急変時や特変時は、併設の医師や看護師に状態を報告し助言を頂き、適切な対応が出来るように努めている。	定期的な訓練は行っていない。急変や事故発生時は併設の病院の医師又は看護師に連絡し、適切な指示に従い対応出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の職員を中心に防災訓練を年2回実施している。119通報マニュアルや夜間火災、停電の対応マニュアルを作成している。又、運営推進会議では区長さんや、民生委員さん等の外部からの意見や提案などを頂き協力体制を築いている。防災無線も設置しています。水害時、地震時の訓練は行っていないので今後の課題です。	防火管理者の職員を中心に、年2回防災訓練実施している。119通報、夜間火災、停電時の対応マニュアルを作成している。運営推進会議では区長様、民生委員様等、外部からの意見や提案を頂き協力体制を築いている。防災無線も設置している。水害や地震時の訓練は行っていないので今後の課題です。	年2回の訓練は地元消防団の協力も得て昼間帯に行っている。夜間想定時には、夜勤者とみなした職員のみで初期対応(役割分担マニュアルあり)を試みている。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器や通報装置の使い方も承知している。避難場所は隣接する母体医院で、事業所の垂直避難先でもある。非常食や水等の備えもあり、緊急時にドアを塞ぐような家具の配置もない。今後は緊急連絡網に地域役職の方や近隣住民の登録も検討している。	前回の外部評価後、避難訓練の見直しを含む多様な災害に対する課題を挙げ、克服すべく目標を設定していたが改善には至っていない。ハザードマップでは低い水位だが洪水エリアにも入っている。細部の見直しには実際の暗さや動きを体験、または想像力を働かせながら実行可能か否かを図り、最善策を講じて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（Ⅰユニット）	自己評価／ユニットB（Ⅱユニット）	外部評価 （評価機関記入欄）		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の体調面や心理状態を把握し、プライバシーの保護に配慮しながら、人格尊重を重視した言葉かけや行動が出来るように努めている。	利用者様、一人一人の性格や心理状態を把握し、個々に応じた言葉かけやプライバシー保護に努め対応している。ミーティング等にて職員間で話し合い情報共有している。	入浴やトイレの介助では羞恥心などへの配慮が求められる。事業所では、周囲に見えにくい立ち位置でのケアや、カーテンも上手く使いながらの心遣いが窺える。入居して間もない時期は同性介助が良いのか尋ねているが、日々の様子からも判断している。また個人情報の取り扱いに関して職員の意識は高く、業務上のやり取りであっても声の大きさには注意を払っている。ホーム便りに掲載する写真は入居時に承諾を得ており、居室の名札表示についても同様である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中からそれぞれの思いやニーズを把握出来るように努めている。又、思いを言葉に出せない方には表情や動作等で推察しケアを行っている。常に話し合いの場を設け、職員間の情報共有に努めている。	利用者様、個々の思いやニーズを把握できるようコミュニケーションを取り理解するように努めている。認知症の症状により思いを言葉に出来ない方等は、表情や動作によりニーズを理解するよう努めている。職員間でも情報共有し支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者様のニーズに沿うケアを心掛けているが、業務優先やホームのスケジュールに合わせて頂くこともあり、その事を反省し自覚しながら、出来る限り利用者様の希望に応えられるように努めていきたい。	利用者様のペースに合わせた支援を心がけているが、ホームの時間やスケジュールに合わせて頂くこともあり、業務優先になっている職員も多く、その事を反省し自覚しながら利用者様の希望に沿った支援ができるように努めたい。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室等へは、ご本人様やご家族様の要望を第一に、好みの店舗へ予約の手配を行っていましたが、コロナの影響により地元美容室に訪問を依頼、来荘して頂いている。	利用者様の行きつけの美容室に家族様の送迎で行かれている方も美容室に通う事が困難な方もコロナの影響もあり地元美容室に訪問を依頼している。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は調理専門の職員が行ったり、外注している為、利用者様と一緒に調理等出来ていない。下膳や食器洗い等出来る方には声掛けしお願いしている。又、個々の嚥下状態や好みに合わせて食事形態や食材等を考慮し提供している。利用者様より献立の要望がある時は、メニューに取り入れるよう努めている。一緒に調理が出来ていない分、献立を考えてもらうなどの工夫をしていきたい。	調理は調理専門の職員が行ったり、外注している為、利用者様と一緒に調理が出来ていない。個々の食の好みや食事形態を考慮しながら提供している。また、下膳や食後の食器洗いなど利用者様の出来る時をお願いしている。	事業所では炊飯と汁物が用意され、主菜・副菜は契約する業者から届いている。献立は業者によるが、利用者から希望があれば単品で応えている。好き嫌いやアレルギーの有無の把握もしており、苦手な食材や献立には代替えもある。なかなか箸が進まない方には声掛け等で促し、出来るだけ自分で口へ運んでほしいとの思いから介助は最小限に止めている。自助食器やご飯が見えやすい色付き茶碗などの工夫もある。職員は介助や見守りで同席しながら、食事が和やかな時間となるよう支援している。誕生日には本人のリクエスト品も加えられ、みんなで祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた食事量や形態を考慮提供している。水分摂取量が少ない方にはゼリーや果物等好まれる物で補給して頂けるよう工夫し、ムセのある方にはとろみをつけ水分補給が出来るように努めている。	個々に応じた食事形態や食事量で提供している。水分摂取量が少ない利用者様には好みの飲み物を提供しムセがある利用者様にはとろみをつけて水分補給できるように努めている。通常の食事が難しい方には補助食品を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自立されている方には声掛けし口腔ケアをして頂いている。介助の方は状態に応じてスポンジブラシ、口腔ケアシート等を用い、義歯については食後の洗浄、夜間帯は浸け置きし、清潔保持に努めている。	義歯を使用している利用者様には夜間帯に全員洗浄液に浸けて頂いている。自立されている方は本人様居室にてされている為、口腔内の確認が出来ていない。介助で行っている利用者様はスポンジブラシを使用したり残渣物がないようにして口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、早めの声掛けトイレ誘導にて失禁の減少に努めている。自立されている方には、パット等わかりやすい位置に置き自立支援を促している。	自発的にトイレに行かれない利用者様には本人様に声掛けし誘導したりトイレを促している。認知症の進行により排泄動作の戸惑いや混乱が見られる利用者様には声掛けしながら見守りや介助を行っている。排泄の失敗による不安や羞恥心を最小限に抑えられる支援に努めている。自立されている方にはパット類をわかりやすい所に置き自立支援を促している。	排泄に関して約3割の方は自立と言えるが、任せたままでなく、さり気ない見守りも行っている。各居室にはトイレが設えてあり自室を利用する方も多い。事業所では毎日の排泄状況を細かく記録しており、それを基に声掛けや誘導のタイミングを計っている。その効果としてパット類のサイズダウンや布パンツ併用が可能となった例もあり、延いては費用負担の軽減へと繋がっている。共用トイレは車椅子利用となっても十分な広さである。手すりや可動式ひじ掛けも設置され、自立を促す補助具として役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性の方には緩下剤を服用して頂いている。家族様提供の健康茶、乳製品、適度な体操等一人おひとりに合わせて対応している。	慢性的な便秘の方には緩下剤を服用して頂いています。日頃から水分摂取をこまめに行なっていますが残される方には声掛けし摂取を促している。また、摂取量が少ない方には好みの物を家族様に準備して頂き提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夏場は週3回、冬場は週2回の設定を行っている。室温や入浴剤を使用し入りやすい環境作りに務めている。(特変時の対応が出来るように併設の病院の主治医在中の時間内に入浴して頂く方あり。)	夏場は週3回、冬場は週2回に設定。毎回、入浴剤を使用し入浴を楽しんで頂けるようにし、室温に注意して入りやすい様に努めている。また入浴拒否される方には職員を変えて声掛けをしたり時間を置いて声掛けしている。それでも拒否される場合には別日に入浴して頂いたり次回入浴日に見送る等、本人様の調子に合わせる工夫をしている。	入浴日には目安があるが、それ以上の希望があっても対応できる。入浴剤を使うことで見た目の色や香り、また保湿効果も期待でき一人ずつゆっくりと寛いでもらっている。入浴を嫌がる方には無理強いせず、時間をかけて声掛けしたり、清拭やシャワー、足浴等で対応することもある。浴室・脱衣場共にある暖房設備はヒートショック対策となり、すぐ脇にトイレがあることも使い勝手がよい。浴室には手すりやシャワーチェアを備え安全な入浴を支援している。またソープ類は事業所で用意するが、中には敏感肌で自分用を所持する方もあり利用者毎に使い分けている。入浴しない日でも下着肌着の交換を行い、衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室にテレビのある方は見たい番組を見てから、また、ラジオを聴きながらだったり、眠剤を服用している方も自分のペースで過ごし、眠くなってから消灯されている。日中も自室やソファにて、昼寝や休息をされている。	本人様のペースで日中は昼寝をされたり休息されている。就寝時間は決まっておらず眠くなるまで自室や共有スペースのソファにて読書をされたりテレビ視聴されている。眠前薬を服用されている方も同じ様に過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現病歴と薬剤の理解に努めている。個々に応じてスプーンや、口中介助行い、自立されている方には飲み込みまでを必ず確認している。臨時薬には赤い線を入れ、申し送り簿に記入しスタッフ間で情報を共有している。	現病歴と薬剤の関連性について理解する事に努めている。錠剤での服用が困難な方は粉末にして服用して頂いている。飲み込みまで確認している。薬の変更、臨時薬がある時は、臨時薬には赤い線を入れて申し送り簿に記入し口頭でも情報を共有し記録している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の居室や廊下のモップ掛け、玄関の掃き掃除、洗濯物を干したり畳んだり、新聞を折ったりと自主的に手伝いをして頂いている。貼り絵や塗り絵、気候のいい日にはテラスでの外気浴、月ごとの誕生会、季節に合わせた行事等企画している。	本人様、個々のできる範囲で積極的に洗濯物を干したり、畳んだりして頂いています。また、折り紙や塗り絵など得意分野を生かして職員と一緒に取り組んで頂いている。その月の誕生者の方を入居者様皆様さんでお祝いしたり、季節に合わせた行事を楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において外出支援が出来ていない。感染者が減少傾向の時はドライブにて車窓より花見等して頂き気分転換を図っている。	現在、コロナ禍のため外出を控えている。少しでも気分転換をして頂けるように荘のテラスで外気浴をしたり、近隣を散歩したりなど行っている。	コロナ禍前は、天候や体調をみて当日に決まり出掛ける事もあった。おやつなどの買物にも出掛けていたが、現在は殆どが自粛である。そのような状況下でもドライブ等で気分転換を図ることもあり、目的地の人出をみて降車の判断をしながら、いつもと違う時間を楽しんでもらっている。また庭先に出たり、周辺への散歩は日常的に支援され、日差しを浴びながら五感の刺激にもなっている。杖の代わりに、利用者が他利用者の乗った車椅子を押す光景もあり、見守りの中で穏やかな時間を過ごしている。車椅子対応車両もあり、全く外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品やおやつ購入、美容院代用に自己管理されたり、手元に置いていることで安心されている方、家族様希望にて職員管理している方でも定額を提供し自由に使用されたりと、様々な支援を行っている。	ご家族に電話をする時用に持たれている方、美容院代に自己管理されたり、手元に置いていることで安心されている方、様々である。また、家族様がすべての管理をされている方、必要な生活用品などの購入用に事務所で管理されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の個人便りに、本人様を書いて頂いたり、電話を希望される時は公衆電話から自由に掛けて頂いている。また、ipadにて家族様との交流の支援を行っている方もいらっしゃる。	ご本人が電話を希望される場合は公衆電話から自由に連絡を頂いています。また、遠方に住まれている家族様と手紙のやり取りをしたり、毎月の個人便りを本人様に書いて頂いたり支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに貼り絵やポスターを貼り替え、花を生け季節感を取り入れている。安全な導線確保やテーブル、ソファの配置を工夫しつづける空間作りに努めている。また、共有トイレはカーテンにて不快にならないよう配慮行っている。	季節を感じてもらえるように毎月、ポスターを貼ったり、花や植木を飾ったりしている。また、安全に快適に過ごして頂けるように共有スペースのソファや食席の配置の工夫をその都度行い、居心地良い空間作りに努めている。共有トイレにはカーテンをして不快にならないように配慮している。	建物の中央にリビングがあり、その両サイドに各ユニットがある。リビングには丸みのある壁があり、そこから延びた天井の梁は大樹が枝を広げているようにも見える。日中の殆どをここで過ごす方もあり、それぞれの席には配慮も窺える。利用者の動線上に行動を妨げる物はない。道路脇だが騒音もなく、夏場の日差しはヨシズで和らげている。時節柄、換気には注意を払い、手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。利用者の中には出来る範囲で掃除を手伝う方もある。トイレや浴室もきれいに掃除され、家族からも嫌な臭気はないと評されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファで、仲の良い利用者様同士で過ごされたり、時には一人でテレビを見たり、昼寝をしたり、レク活動をしたりと思い思いに過ごされている。また、状況に合わせて誘導を行っている。	食席やソファで新聞を見られる方やソファでテレビを見たり、お昼寝をされる方もいる。仲の良い利用者様同士はおしゃべりをされたり楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入荘の際、馴染みのある家具や品物、また家族の写真等を持参して頂き、自宅で過ごされてきた環境に近づけ安心して過ごして頂ける環境作りに努めている。	入荘の際、本人様が馴染みのある家具や品物、また家族の写真などを持参して頂き、自宅で過ごされていた時と同じ空間で落ち着いた生活を送って頂けるよう対応している。	火気等の危険物以外に持ち込む品物の制限はない。使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝えている。配置や飾り付けは本人と話しながら行い、居心地よく過ごしてもらえるよう支援している。仏壇がある方には毎朝の仏飯やお茶の供えも手伝っている。各居室には出窓があり、ぬいぐるみや写真を飾る方もある。またクローゼットがあることでシーズンオフの寝具や衣類の保管場所となり、日頃の整理整頓にも役立っている。洗面台の下もバット類を収納しプライベートへの配慮が窺える。天気の良い日には寝具を干す手間も惜しまない。家庭と同じような環境である。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰユニット)	自己評価／ユニットB(Ⅱユニット)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫し ている	各居室にはトイレと洗面台が設置され プライベートな部分が守られている。 居室が分かり易い様に写真や ネームプレートで対応している。トイ レ、廊下、浴室には手摺りがあり、 ベッドは起居動作のしやすい配置に て安全の確保に努めている。	各居室にトイレや洗面台が設置さ れている。利用者様が使いやすくプ ライベートな部分も守られている。ト イレや廊下、浴室などの共有スペー スには手すりがあり、利用者様が安 全に快適に生活ができるように工夫 をしている。ベッドは状態に応じ、起 居動作のしやすいベッドを使用し て頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○		1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない